

東京大会を契機とした持続可能性に配慮した 生産の取組について

令和3年9月
農林水産省

東京大会における食材調達基準(農産物)

《農産物》

持続可能性に配慮した農産物の調達基準(概要)

＜要件＞

- ① **食材の安全を確保**するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ② **周辺環境や生態系と調和のとれた農業生産活動を確保**するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ③ **作業者の労働安全を確保**するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。



(要件①～③を満たすことを示す方法)

- ア **ASIAGAP**、
GLOBALG.A.P.、
組織委員会が認める認証
スキーム ※ **JGAP**など
- イ **「農業生産工程管理(GAP)の
共通基盤に関するガイドライン」**
に準拠したGAPに基づき生
産され、都道府県等公的機関
による第三者の確認

＜要件を満たした上で推奨される事項＞

・有機農業により生産された農産物

・障がい者が主体的に携わって生産された農産物

・世界農業遺産や日本農業遺産など国際機関や各国政府により認定された伝統的な農業を営む地域で生産された農産物

(海外産で、上記要件の①～③の確認が困難な場合)

組織委員会が認める持続可能性に資する取組に基づき生産され、トレーサビリティが確保されているものを優先

＜国産を優先的に選択＞

(国内農業の振興とそれを通じた農村の多面的な機能の発揮等への貢献を考慮)

(生鮮食品)

加工

(加工食品)

主要な原材料である農産物が本基準を満たすものを、可能な限り優先的に調達

サプライヤー(ケータリング事業者等)

出典:公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会作成資料
※ 農林水産省追記:JGAPのほかに「有機JAS認証の審査項目に加えてGAPガイドラインの差分項目を確認する方法」などがある。

《畜産物》

持続可能性に配慮した畜産物の調達基準(概要)

<要件>

- ① 食材の安全を確保するため、畜産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ② 環境保全に配慮した畜産物生産活動を確保するため、畜産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ③ 作業者の労働安全を確保するため、畜産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ④ 快適性に配慮した家畜の飼養管理のため、畜産物の生産に当たり、アニマルウェルフェアの考え方に対応した飼養管理指針に照らして適切な措置が講じられていること。



(要件①～④を満たすことを示す方法)

- ア JGAP、
GLOBALG.A.P.、
組織委員会が認める認証
スキーム
- イ 「GAP取得チャレンジシステム」に則って生産され、
第三者による確認

<要件を満たした上で推奨される事項>

・有機畜産により生産された畜産物	・エコフィードを用いて生産された畜産物	・障がい者が主体的に携わって生産された畜産物
・農場HACCPの下で生産された畜産物	・放牧畜産実践農場で生産された畜産物	

(海外産で、上記要件の①～④の確認が困難な場合)

組織委員会が認める持続可能性に資する取組に基づき生産され、トレーサビリティが確保されているものを優先

<国産を優先的に選択>

(国内畜産業の振興とそれを通じた農村の多面的な機能の発揮等への貢献を考慮)

(生鮮食品)

加工

(加工食品)

主要な原材料である畜産物が本基準を満たすものを、可能な限り優先的に調達

サプライヤー(ケータリング事業者等)

GAP認証、都道府県GAP等の推移

- 令和3年3月で、GAP認証取得は8,078経営体、都道府県GAPの取組確認は約22,000経営体
- GAP認証を取得した経営体数は、東京大会の食材調達基準が決定された平成29年3月からの4年間で約1.8倍に増加
- 東京大会への食材供給について、農産物(米、トマト、なし、こまつな、しいたけ等)は全都道府県、畜産物(牛肉、鶏卵、豚肉、鶏肉、乳製品等)は35都道府県から意向が示された(令和元年内閣官房調査)

(単位:経営体)

	H29. 3	H30. 3	H31. 3	R2. 3	R3. 3
GLOBALG. A. P.	421	480	702	669	692
ASIAGAP	582	1,415	1,869	2,379	2,403
JGAP	3,519	2,785	2,851	4,315	4,983
合 計	4,522	4,680	5,422	7,363	8,078
都道府県GAP	—	—	約12,000	約17,000	約22,000
GAP取得チャレンジシステム(畜産)	—	19	48	75	45

※ 青果物、穀物、茶、畜産物に係る認証経営体数(国内のみ)。
 ※ 複数の認証を取得している経営体については重複計上。
 ※ GLOBALG. A. P. の経営体数について、H30. 3はH29. 12時点、R3. 3はR2. 12時点。
 ※ 都道府県GAPは、各都道府県から報告のあった速報値を集計。
 ※ GAP取得チャレンジシステム(畜産)は、GAP取得の準備段階の取組であり、第三者確認済農場数。

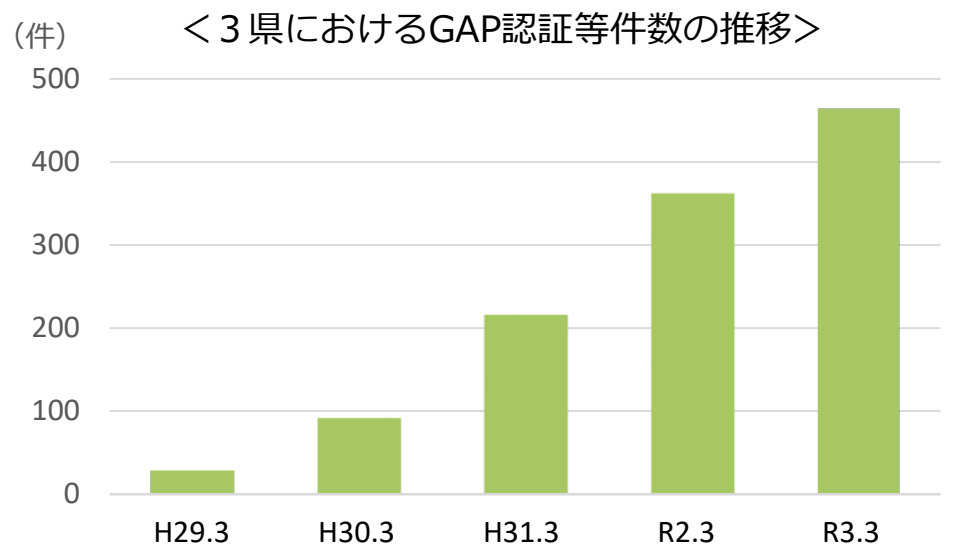
復興の取組におけるGAPの推進

- 東京大会の食材調達基準が決定された平成29年から、大会への供給を通じて、東日本大震災の風評払拭や高品質の日本産農産物の魅力を情報発信するために、3県のGAPの取組は4年間で約19倍に増加
- 福島県は、東京大会の選手等にGAP認証農産物を提供し、福島県のGAPの取組をPR
- 被災地産の食材は、東京大会期間を通じて選手村ダイニングに供給

復興の取組におけるGAPの取得

宮城県・岩手県・福島県の3県においては、GAPの取組を通じて安全・安心な農産物の供給に取り組んでいる。

3県におけるGAP認証等の件数は着実に増加。平成28年度に25件だったGAP認証件数は、令和2年度で464件と約19倍に増加。



※ GLOBALG.A.P.、ASIAGAP、JGAP、県GAPの合計件数。

大会関連イベントで福島県のGAPをPR



Jヴィレッジで事前合宿を行った男子サッカー・オーストラリア代表に、福島県産のGAP認証農産物を贈呈。

福島県の農業者がGAPを通して安全で品質の高い農産物を生産する取組をPR。



白河市で実施された日本ボッチャ協会強化指定選手による強化合宿を行った際に、選手及び協会関係者にGAP認証農産物を贈呈。

GAPによる安全・安心な農産物の生産について、メインプレスセンターで記者ブリーフィングを実施

GAP Activities in Fukushima

Challenge by Fukushima as No. 1 in Japan for GAP

Fukushima prefecture government published "Fukushima GAP Challenge Declaration" in 2017. The Declaration aims to promote agricultural production with securing safety and public confidence by acquisition of GAP certification towards GAP No.1 in Japan.



Fukushima's producer engaging GAP certified products

Iwase Agricultural High School (Kagami-ishi town)



When the students went abroad for their training program in 2018, they were shocked to recognize the anxiety of students whom they visited over agricultural products in Fukushima. They felt the necessity of establishing confirmed production system through objective evidence in order to remove unfounded rumor.

Then they challenged to acquire GAP certification and finally acquired GLOBALG.A.P. over many commodities.

Promotion of GAP in Fukushima at events in Tokyo 2020



Giving GAP certified agricultural products as a gift to men's football team from Australia staying at training camp of J village. It contributes to promotion of safety and high quality of Fukushima's agricultural products.



Fruit Section, JA Fukushima Mirai (Fukushima city)



It acquired JGAP certification as a group in 2018 with 61 farmers participation currently. They address specifying concrete issues and actions as well as risk management for hazards in each farm to supply agricultural products with securing further safe and consumer confidence.

Further information:
<https://gap-fukushima.jp/en/>



農業高校におけるGAPの取組

- 全国の農業高校107校(令和3年6月)、農業大学校等29校(令和3年5月)がGAP認証を取得
- 東京大会への食材供給について、30都道府県の74校から意向が示された(令和元年内閣官房調査)

(令和2年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール生産局長賞)

GLOBALG.A.P. JGAP

福島県立岩瀬農業高校・株式会社八芳園(福島県・東京都)

産学連携による相互の人材育成に向けた取組の推進

<取組と効果>

- 詳細なマニュアルと農場での表示等によって、**毎年変わる生徒への農場管理手法を継承**。
- 教員のみならず**生徒のリスク低減に係る意識が向上**し、労働安全性を確保。
- 学科ごとに実施していた資材等の管理を一元化することで、**必要以上の資材発注を削減**。
- GAPの実践によって、**生徒が自主的に行動するようになる**など、教育効果が向上。
- **GAPの強みを活かした商品開発や海外進出に向けた取組**など、魅力的な教育プログラムを実践。
- パートナーである八芳園から、GAP認証農産物を活用した料理や商品化の指導を受け、**生徒の企画力向上**、併せて、八芳園社員の理解促進が図られ、**実需者とのマッチング機会が増加**。



【岩瀬農業高校と八芳園の連携】 【GLOBALG.A.P.の公開審査】 【畜産GAP取得に向け指導の様子】

<認証品目> GLOBALG.A.P.(米、大豆、小豆、パジル、みずな、きゅうり、レタス、ばれいしょ、だいこん、メロン、かんしょ、トマト、えだまめ、ルッコラ、らっかせい、りんご、なし、ぶどう)
JGAP(乳用牛・生乳、肉用牛、採卵鶏・鶏卵)

(令和元年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール生産局長賞)

GLOBALG.A.P.

岐阜県立岐阜農林高等学校(岐阜県)

生徒が“先生”、生産者と共に育むGAP!

<取組と効果>

- 「地域の食・農・環境を持続的に発展できる人材育成の研究」の一環で**平成29年からGAPの学習及び取組を開始**。
平成30年11月に**県内の農業高校では初となるGLOBALG.A.P.を米で取得**。審査では、流通科学科の生徒が中心となり対応。
- 教育機関としては、**県内の農業科教員を集めた研修会の開催**のほか、**JGAP及びASIAGAP指導員養成講習会のために同校を会場として提供**するとともに農場等の見学会を実施。
- 農場内の点検手法として「**GAPトリアージ**」を独自に考案し、**生徒がアドバイザーとして地域農家のGAP認証の取得を支援**。
GAPトリアージとは、改善点の緊急度に応じて、4色のカードを改善ポイントに貼り付けることで、**農場の状況を見える化することができる手法**。本手法を活用し、**農家の方にわかりやすい支援を実施**。
- 今後は**アドバイザー活動を継続**するとともに、**米以外の品目でもGAP認証取得に向けて取組を継続**。



【岐阜県立岐阜農林高等学校】



【地域農家への支援風景】

<認証品目> 米

GAPパートナーの取組拡大

GAP認証農産物を取り扱う意向を有する事業者を「GAPパートナー」として募集し、農林水産省HPに掲載

						<p>「GAPパートナー」の取組やお問い合わせ先等の詳細情報については、GAP情報発信サイト「Goodな農業！GAP-info」に掲載しております。</p> <p>Goodな農業！GAP-info </p>			